

高等学校の創作ダンス授業における教員の発言と学習者の学習意欲の関係

—単元の導入部分に着目して—

村山日和 （ 筑波大学 ）

1. 目的

本研究では、動機づけ雰囲気に着目し、高等学校での創作ダンスを扱う授業において、熟達雰囲気と成績雰囲気それぞれを意識した発言が生徒の学習意欲にどう影響するかを調査し、高等学校での創作ダンスを扱う授業における単元の導入部分での、生徒の学習意欲を高める教員の発言内容を検討することを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 対象者はA高校生徒 59名。内訳は男子 26名・女子 33名。高等学校入学後、創作ダンスを実施していないことを条件とした。
- 2) 調査方法は実験的な方法を用いた。筆者が創作ダンス授業単元導入部分の発言内容を4種類作成・発話し、高校生に動画を視聴の上、Google form アンケートへの回答を求めた。作成した発言内容の概要を以下に示す。発言内容①（熟達雰囲気）：創作ダンスや友達と踊ることを自由に楽しむことを促す内容／発言内容②（成績雰囲気）：創作した作品に順位をつけ、それによって成績がつけられる内容／発言内容③（熟達雰囲気）：新たな挑戦を促す内容／発言内容④（成績雰囲気）：例年の生徒との比較をし、勝つことを期待する内容
- 3) 分析方法は4件法を用いた項目は単純集計を行い、回答理由を自由記述で問うた項目は意味まとまりで区切り、ラベルを作成し、類似性があるものでグルーピングし、カテゴリを生成した。

3. 結果と考察

学習意欲を高められた発言内容から順に並べると、発言内容③→①→④→②となった。発言内容

①では、対象者は「楽しみながら」という言葉を強く受け取り、楽しむ対象が創作ダンスそのものではなくとも、授業に対する漠然としたプラスな感情を抱き、学習意欲が高まったと考えられる。発言内容②では、対象者の持つ順位をつけることへの不満や違和感から学習意欲が低下したが、競争志向の高い生徒にとっては意欲を増すものでもあった。しかし、意欲を示した対象者にとっても授業での活動に自ら取り組もうとする姿勢は低下させたと考えられた。発言内容③は、4つの発言内容のうち、最も生徒の学習意欲を高めた。その要因として、生徒は知らないことや新鮮なことに興味を抱き、体育への潜在的な意識にかかわらず、学習意欲を示したと考えられた。発言内容④では、教員の過度な期待や他者との比較により、創作ダンスへの興味が湧かず、学習意欲が低下した。

4. 結論

本研究では、高等学校での創作ダンスを扱う授業における単元の導入部分において、熟達雰囲気を意識した発言内容が生徒の学習意欲を高めることが明らかとなった。加えて、高等学校における創作ダンス授業で生徒の学習意欲を高める教員の発言内容の構成要素として「創作ダンス授業へのプラスのイメージを形成する内容」と「未知で新鮮なものへの興味を喚起する内容」が有効であることが明らかとなった。

5. 主な参考文献

- 1) 中須賀巧・阪田俊輔・杉山佳生（2017）高校体育における動機づけ雰囲気および目標志向性が生徒の体育授業満足感に与える影響. 日本体育学会, 62（1）:297-312